

第21回消防団員意見発表会

サラリーマン消防団員奮戦記

(社) 東京都消防協会 優秀賞 受賞

深川消防団代表 第3分団 班長 佐野 英人



私は「サラリーマン消防団員」です。

神戸に本社があるアパレル企業に勤務しています。

サラリーマンである私が地元の深川消防団に入団してから今年で9年が経ちます。

その間の消防団活動の中で一番印象に残っている出来事は、昨年の東京都消防操法大会に、深川消防団の機関員として出場したことです。

都大会の操法訓練は、週2、3回平日の夜8時から10時過ぎまで約3ヶ月半行われました。操法訓練日には、代表選手の中で唯一のサラリーマンである私は会社に保安帽、作業服、作業靴を持参し、業務終了後に訓練会場へ直行し、現場で着替

えて訓練に参加しました。

ある時など会社から訓練会場に向かう地下鉄が人身事故でストップし途中駅からタクシーを飛ばして訓練場所に向かったこともあり、無事訓練をこなせた事は、深川消防署の団担当をはじめ深川消防団団長以下支援をしてくださった各分団員の皆さんのおかげと深く感謝しています。

その甲斐があつて、昨年の「第36回東京都消防操法大会、可搬ポンプの部」にて、我が深川消防団は26年振りの優勝を勝ち取ることが出来ました。

この事は、私の人生の中で決して忘れる事の出来ない思い出と大きな自信に繋がりました。

消防団員になってよかったなと思うと同時に、サラリーマンの私が地元の消防団員になったきっかけを思い出しました。

平成7年1月17日月曜日。この日を私は生涯忘れることはないと思います。

「阪神淡路大震災」が発生した日です。

その日の朝テレビをつけると、まるで映画の1シーンのように高速道路が倒壊し黒煙が何本も立ち昇る神戸の町の映像が飛び込んできました。

仕事で何度も神戸に出張している私にとって「まさか神戸にこんな大地震が起きるなんて」と半信半疑のまま会社に出社したことを覚えていきます。

会社関係の被害は、人的に

表面より

は社員1家族4名の方が亡くなられ、三宮にあったビルが座屈し、後に取り壊されました。

神戸のポートアイランドにある本社ビルは倒壊を免れましたが、周囲の液状化で地盤は1、2m沈下していました。

我々東京勤務の社員は、神戸の社員の安否確認をひたすら行い、その後、社員全員の安否が確認できたのは、何と地震発生後1ヶ月以上たってからでした。

その時の惨状を聞き私自身の中に、「被災された人々に対して何か出来ないか」という思いが湧きあがり、そのころ創設された「東京消防庁災害時支援ボランティア」にすぐに応募しました。

その後、地域の防災訓練などに参加しているうちに、消防団の存在を知り入団を志願して現在に至っています。

我々サラリーマン団員は、平日は当然会社勤務がありますから、地元での火災があっても出動できません。ですから自分が出られる時には積極的に参加しようと考え、日々手帳の日程を遣り繰りしながら消防団活動を行っています。我々のようなサラリーマンは、地元地域の人との交流が少ないと言われていますが、日頃の様々な消防団活動を通じて地域の人々との輪が増えることは、我々のようなサラリーマン団員にとって何事にも変えがたい財産となっています。

このように「阪神淡路大震災」がきっかけで消防団活動に従事することになった私ですが、近年消防団に期待される活動領域が、防火、防災は無論のこと、震災対策や国民保護法に基づくテロ対策の一環としての住民避難誘導など幅広く広がってきています。そのような中で今後益々我々消防団が地域住民の身近な防災機関として期待されていると強く実感しています。

私自身としては、今後もサラリーマン団員として自己の健康管理に気をつけて、地域住民の付託に応えられるように訓練には積極的に参加して技術や知識の習得を行っていきたいと考えています。

以上で私の意見発表を終

わらせていただきます。
ご静聴ありがとうございました。



女性団員懇親会で
スピーチする佐野班長